

みどり通信

公立黒川病院院内広報 令和6年1月1日 発行
院内の情報をみなさんにお知らせします



第118号
公立黒川病院院内広報
発行：公立黒川病院

《冬号の内容》

- ジャイアンはこんなこと言わない
- 変革に挑む年
- 医療安全のご紹介

…管理者・医師：角田 浩
…事務部長：田波 雄大
…医療安全管理室長：佐々木 貴子

ジャイアンはこんなこと 言わない



管理者・医師：

角田 浩

(かくた ひろし)

「お前の物は俺の物、俺の物も俺の物」「のび太のくせになまいきな」「おれ、今ムシャクシャしてるんだ。おまえをけとばさせてくれ。人のためになりたいんだろ!」「盗ったんじゃない、借りただけだぞ。いつ返すか決めてないだけだ」

ジャイアンのセリフである。自己中心的で傲慢と言えば傲慢であろう。

しかし、「ドラえもん」でジャイアンこと剛田武役を1979年から2005年まで26年間担当した、たてかべ和也さんは、ジャイアンとして「汚い言葉を使わないように」と意識していたらしい。「バカヤロー!」や「クソッ」などの台詞がシナリオにあると、「ジャイアンはこんなこと言わない」とクレームをつけた。確かにジャイアンは、一方で「友だちにた

すけをもとめられて、知らん顔してられるか!」とも言うのである。

2005年にたてかべ和也さんがジャイアン役を降板するとき、次のジャイアン役には「ジャイアンと同じ性格では、生々しくなり彼の優しさや悲しさ嬉しさを表現できないので、気持ちが優しい人ならいいと思う」との希望を述べていたとのことである。実際の後継者はなんとドイツ生まれで7歳まで日本語を話すことができなかった当時中学生の木村昂さんで、ドイツ人でオペラ歌手の父と日本人でバロック音楽のソリストで声楽家の母との間に生まれた方である。ジャイアンとのギャップがたてかべ和也さんの思い通りだったのかもしれない。

『言葉は人をつくる』からこそ、口にする言葉はよく考えて、大切に」

棋士の羽生善治さんの信条だそうである。

言葉で人(生)は作られる。いや、言葉は人(生)そのものであろう。

今年は特に言葉を大切に臨床していきたい。今年もよろしく願いいたします。



変革に挑む年



事務部長：

田波 雄大

(たなみ たけひろ)

こんにちは、2023年10月より事務部長を拝命しました。田波と申します。

昨年はコロナも落ちつき夏のイベントなども通常開催となり日常が戻ってきた感じではありますが、記録的な猛暑が続き、今年の夏もどうなるか今から心配している毎日です。

現在の黒川病院は平成9年に竣工して今年で築27年と設備が経年劣化した事もあります。まさか27年前に宮城県がこんなに猛暑の地域になるとは予測されていない(?)ため空調能力が追い付かない日も昨年はありましたが、ようやく昨年末に冷却塔の更新工事を行い能力は向上したと思いますが、ここ最近は想定外の事態が起きる時代ですので、油断はできないと思う次第です。

さて、2024年はどんな年になるか調べてみると、まずはパリオリンピックが開催されます。

前回大会の東京オリンピックはコロナの影響で1年遅れての開催となり、パリ開催まで3年間しかなかったため、個人的感想ではありますが、あっという間という感じです。

東京オリンピックと違い無観客でないオリンピックになると思いますので多いに盛り上がってほしいと思います。

そして、来年の干支である辰年には変革や激動など時代が動く年とされています。過去にも東京オリンピックの開催、東海道新幹線の開業、青函トンネルなどの竣工、東京スカイツリーの開業など、大きな出来事があり、2024年は7月に新紙幣が発行されます。

時代はキャッシュレスが進んでいますが、公立黒川病院においても患者サービスの一環として医療費後払いシステムの導入を進めています。

公立黒川病院も時代の変化に合わせて変革に挑んでいきますので引き続き2024年もよろしくお願ひ致します。

医療安全のご紹介



医療安全管理室長・助産師：

佐々木 貴子

(ささき たかこ)

To Err is Human ヒトは誰でも間違える

これは1999年アメリカで発表された医療事故とその防止策を提言した報告書です。

同じく1999年日本でも相次ぐ医療事故をきっかけに国を挙げての医療安全改革が行われてきました。現在では「安全」はそもそも存在しなく、あるのは「リスク」であり、それをいかに減らすかが医療安全の基本的な考えとなっています。しかし言葉の理解はできても、医療に安全が保障されないと私たちは不安でなりません。リスクに囲まれているなんて、たまったもんじゃない、というのが本根ではないでしょうか。その為、どうしたら安全が守られるのか、様々な対策が生み出されました。それは医療界にとどまらず産業界の安全対策をも活用し、鉄道の出発進行の確認で見たことのある指差し呼称での確認方法や、5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)、KYT(危険予知)トレーニングなど安全のためのトレーニングが実施されています。この指差し呼称確認においては、目視だけの確認に比べミス率を1/6に減らすことが出来るそうです。システム化が充実した現在でも、鉄道でこの動作が続けられている理由に納得しました。です。ですので病院で看護師が薬の投薬前や点滴の前、ぶつぶつと何か言いながら、「ヨシ!」と指を差したときは、「この看護師さんは、安全確認をしているんだな」と温かく見守っていただければと思います。

また黒川病院では毎年11月医療安全月間として、医療安全にちなんだ川柳や各部署の5S活動、医療安全ポスターなどを発表しております。川柳はなかなかの出来でクスッと笑えるものも多くあります。病院に立ち寄った際はぜひ観覧していただき、気に入ったものには1票投じていただきたいです。

今後も黒川病院は、安全最優先の医療を提供してまいります。医療安全についてご心配やご不明な点がありましたら、いつでも医療安全管理室までご相談ください。

